

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2011・5 vol.416

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東北地方太平洋沖地震に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



矢巾キャンパス新校舎（右：西講義実習棟 左：西研究棟）と岩崎川

〈写真撮影：画像情報センター、5月10日(火)〉

おもな内容

- 巻頭言 副学長就任ご挨拶 副学長 祖父江 憲治
- 連載 電子カルテシステム導入に向けて⑤ 病院事務部長 柳沢 茂人
- トピックス 平成23年度入学式を挙行
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.26

副学長就任ご挨拶

副学長 祖父江 憲 治



本 学の歴史的事業である総合移転整備計画の一翼を担う医・歯学部基礎講座の矢巾移転途上に、未曾有の大震災が勃発しました。地震とそれに伴う津波は、東日本のみならず、日本全体に壊滅的な被害を与えました。時間が経過するにつれ、被害の甚大さはボディブローの如く襲いかかってきております。今般、御自身がまた御親族が被災された教職員の皆さまには、心よりお見舞い申し上げます。この時期に副学長を拝命することを天命と受けとめ、同時に身に余る光栄で責任の重さを日々実感しております。本学の誇るべき伝統と実績、特色ある医・歯・薬三学部を擁する医系総合大学としての発展に、微力ながら全力を尽くしてまいり所存です。

本 学は被災した岩手全県の医療の復興から再生はもとより、今後さらに東北の巨大な先進的高度医療基地としての役割が期待されております。殊に矢巾キャンパス移転を機に、機能的な医・歯・薬三学部統合による岩手モデルともいべき独創的な教育・研究・診療体制の確立が必要となります。これを具現化すべく、今春より医・歯学部基礎講座は各々統合講座となり、研究面でも三学部が連合した医・歯・薬総合研究所に

よる研究活性化を開始します。

こ れまで全県一医科大学あるいは医学部の流れの中で、本学は岩手県唯一の医系総合大学としてその特異な存在と実績が評価されてまいりました。日本の立場が国際的に地盤沈下し孤立しつつある現状にあって、国内における大学の役割と存在意義が改めて問われようとしています。この潮流の中で、強烈なアイデンティティを持つ医系総合大学として、国内外に実績を示し情報を発信することが必要です。本学の独自の特色を前面に打ち出し、国内外に打って出ることです。本学の伝統を踏まえた、岩手県さらに東北に根付いた独創的な特色作りであります。この特色作りの基盤にあるのは、それを作る人です。本学教職員皆様の力の集約があつてこそ、初めて斬新なアイデアの下で特色ある大学作りが可能となるものと考えます。

微 力ではありますが、教職員の皆様とともに岩手モデルと呼ばれる特色ある大学作りに邁進してまいり所存です。就任のご挨拶とともに、本学が地域に生き世界に情報発信する大学となるべく、皆様の御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

平成23年度 事業計画

わが国の高等教育において、大学の過半数を占める私立大学が担ってきた役割は極めて大きいものです。しかし、急速に進む人口構造の変化や大学設置の規制緩和等により、その多くは著しく経営が悪化し、私立大学に対する財政支援の方針も不透明となっています。

このような環境下にあって、本学は建学の精神に基づき有為な人材を育成し、地域医療の安定を図り、社会に貢献する使命を全うしていかなければなりません。よって、平成23年度は附属病院移転整備事業の推進に最大限注力します。第一に、有為な人材育成のために、施設のみならず教育・研究においても医学部・歯学部・薬学部の有機的な連携体制の確立に努め、第二に地域医療を更に充実させるため、病院移転及び内丸地区の整備事業の具体化を推進します。

これらの事業推進には経営基盤の安定と堅実な運営が肝要であり、最大の収入源である医療収入については、一層の患者確保に努め、更なる増収を図るとともに医療経費率の抑制に努めます。また、恒常的な学納金収入を維持するために、学生確保対策の強化に努めます。

以上の方針に基づき、各事業計画の着実な実施に向けて、教職員一丸となって取り組むものです。

(1) 総合移転整備計画関係

- ①附属病院および内丸メディカルセンターの病院基本計画の策定
- ②附属病院移転用地（C敷地）の土地造成工事の推進（平成24年3月完了予定）
- ③内丸地区跡地利用計画の実施
- ④日赤岩手乳児院等の敷地取得についての協議
- ⑤矢巾キャンパス緑化事業の推進

(2) 教育・研究関係

- ①医学部学生定員増に伴う教育体制の整備及び地域医療に貢献する医師の養成
- ②医師国家試験の合格率の向上
- ③歯科医師国家試験の合格率の向上
- ④入学生の確保
- ⑤大学院薬学研究科の設置準備
- ⑥キャリア支援センターの充実
- ⑦医療専門学校の入学生の確保
- ⑧医療専門学校の国家試験合格率の高位維持

(3) 補助事業及び委託事業関係

- ①最先端・次世代研究開発支援事業（日本学術振興会先端研究助成金）
- ②私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省私立学校施設整備費補助金、文部科学省私立大学等経常費補助金）
- ③私立大学学術研究高度化推進事業（文部科学省私立大学等経常費補助金）
- ④私立大学・大学院等教育研究装置施設整備費補助金

による機器更新

- ⑤私立大学等研究設備整備費等補助金による機器更新
- ⑥がんプロフェッショナル養成プラン（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑦医師不足解消のための大学病院を活用した専門医療人材養成事業（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑧大学病院における医師等の勤務環境の改善のための人員の雇用（文部科学省大学改革推進等補助金）
- ⑨オーダーメイド医療実現化プロジェクト（文部科学省科学技術試験研究委託事業）
- ⑩岩手県ドクターヘリ導入促進事業補助金
- ⑪総合周産期医療センター運営費補助金
- ⑫周産期医療施設設備整備費補助金
- ⑬都道府県診療連携がん拠点病院事業補助金
- ⑭小児医療施設設備整備費補助金
- ⑮精神科救急医療施設運営委託事業
- ⑯岩手県認知症疾患医療センター運営委託事業

(4) 医療関係

- ①ドクターヘリ基地ヘリポート新設工事
- ②循環器医療センター外来診療室拡充工事
- ③花巻温泉病院病棟冷房機新設・更新工事
- ④病院アメニティーの改善

(5) 施設設備関係

- ①6号館南側外壁修繕工事
- ②10号館電気室制御用直流電源装置更新工事
- ③東病棟二酸化炭素及びハロンボンベ容器弁耐圧試験の実施

※本紙掲載内容は、平成23年度事業計画書より抜粋したものです。詳しい内容に関しては、平成23年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」を参照ください。

電子カルテシステム導入に向けて ⑤

— 東日本大震災により第二次導入開始時期を延長しました —

病院事務部長 柳 沢 茂 人

3月11日(金)14時46分に発生した三陸沖を震源とする国内観測史上最大の地震により、東北地区の太平洋沿岸部を中心として甚大な津波被害が発生しました。内陸部においてもライフラインの遮断、交通機関や通信手段のマヒ等生活に大きな影響を受けております。4月7日(木)には岩手県においても震度5～6の余震があり、北東北全体が停電となるなどまだまだ予断を許されない状況が続いております。このことにより、附属病院で計画していた電子カルテの第二次導入開始日を延期せざるを得ない状況となりました。今回は第二次導入開始日と5月9日現在の進捗状況について報告します。

第二次導入開始日について

3月11日の東日本大震災に伴い、3月23日(火)の第二次導入開始日を4月11日(月)へ延期しましたが、4月7日の余震により公共交通機関の復旧の目途が立たなくなったことから再度延期とし、5月16日(月)8時開始とします。

導入範囲について

第二次導入範囲は、(当初の予定通り)

細菌検査、病理検査、生理検査(脳波・心電図はオーダーのみ)、内視鏡検査、輸血、栄養指導、リハビリ、処置、透析、指導料、病棟指示、チーム医療(NST、褥瘡、高気圧酸素治療)、文書作成、カルテ記載、スキャン業務となります。

現在の進捗状況について

- マスタの整備・・・処置及び病棟指示のマスタ整備を中心に、薬剤・検査・放射線等についても作業を行い、より一層の精度向上に努めています。
- 文書関係の整備・・・各診療科医師の協力により、ワード・エクセル等の文書類、また、エクスタチャート等も含む約1,500種類程度、電子カルテへ取り込み作業が完了。第二次導入開始に伴い、誤字脱字等の最終確認作業を行っています。
- 看護部門の整備・・・電子カルテ担当の看護師を配置し、看護関連業務について病棟・外来からの質問及び要望事項を取りまとめて、運用の面での改善策を提案していただいています。
- 操作訓練について・・・新入の医師・歯科医師(研修医、歯科医含)と看護師について操作訓練を計画しています(5月9日～5月19日)ので、積極的に参加願います。
訓練時間は医師・歯科医師4時間、看護師2時間を予定しております。
その他の職種については各部門での訓練をお願いします。
- スキャン方法について・・・スキャンの運用方法については、事務が各部署をラウンドし、スキャンの範囲等の最終確認を行なっています。
- 医療費の支払い方法について・・・医科部門において医療費の自動精算支払機とPOSレジ*、また、患者会計の準備状況の有無を表示する大型ディスプレイについて検討を重ねています。
*POSレジは、正確な入出金額を把握できるよう医事システムと連動し現金の自動計算や複数計算書(未収金など)の同時処理等の機能を備え、窓口業務の迅速化・効率化を可能にします。

医療情報システム係の新設

4月1日(金)から医務課内に「医療情報システム係」を新設し、電子カルテシステムを中心とした病院関連のシステムの管理・運営業務を担当することにしました。(旧、電子カルテプロジェクトチームが母体) 構成員は事務員4名、看護師1名の計5名です。連絡先は左図のとおりです。

●操作、運用に関するお問い合わせ			
平日	8:30～17:00	3277、3297	医務課 医療情報システム係
第1・第4土曜日	8:30～12:30		
上記時間以外	※24時間365日対応可能	0120-57-1747	富士通サポートコールセンター
●インフラに関するお問い合わせ			
平日	8:30～17:00	3295、3296	医務課 医療情報システム係
第1・第4土曜日	8:30～12:30		
上記時間以外	※24時間365日対応可能	0120-57-1747	富士通サポートコールセンター
●各種マスタメンテナンスに関するお問い合わせ			
平日	8:30～17:00		
第1・第4土曜日	8:30～12:30	各部門	

※マスタメンテナンスとは、システムを構築する際に、使用しやすくするためのコード設定や画面表示の文言追加及び変更に関する業務を意味します。

※回線が大変混み合っておりますので、サポートデスクへの連絡時は、現場の方々に確認をして頂いてからお問い合わせいただきますようお願いいたします。

ヘルプデスク（問い合わせ窓口）の状況について

4月中は1日当たり、50件前後の問い合わせがありました。内容は、操作関連の質問が7割、マスタ変更等の要望事項が2割、プリンタの不具合等のインフラ関連の問い合わせが1割となっております。

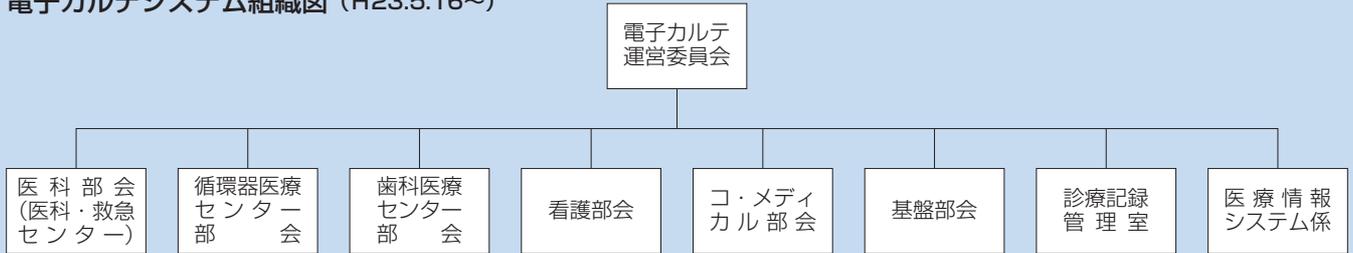
現在、8:30~17:00までは医療情報システム係がヘルプデスクを担当し、リモート作業により操作面で不明な画面を一緒に閲覧し、問題点解決に取り組んでいます。

（休日・時間外は富士通サポートコールセンターが対応・24時間対応）

電子カルテ本稼働後の進め方

第二次導入により、予定していた電子カルテシステムが完成することになります。今後は電子カルテのシステムの有効利用や、今回導入しなかった部門の整備を検討する必要があるため、今までのWGを発展的に解消して、「電子カルテ運営委員会」と6つの「専門部会」を設置し、診療記録管理室と医療情報システム係と連携して進めていくこととします。そのために、現状の運用に見合った規程整備を急いでおります。

電子カルテシステム組織図（H23.5.16～）



今後の課題と問題点

電子カルテシステムのデータをいろいろな部署で有効利用するため、データの抽出方法を確立する必要があります。また、附属病院の職員は医師、看護師をはじめとして異動による転入・転出が多いため、運用及び操作方法の周知と操作訓練の継続が必要とされます。今後、医療情報システム係が中心になって対応していきます。

電子カルテシステム関連の情報について

電子カルテ運用フロー、操作マニュアル等を大学HPに掲載しております。

[岩手医大HP](#) → [教職員専用](#) → [学内限定情報ページ](#) → [電子カルテ関係](#)

岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を開始いたしました。

皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については**企画部企画課 支援受付担当**までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線 7022・7023） FAX 019-624-1231

E-mail : kikaku@j.iwate-med.ac.jp



平成23年度入学式を挙

岩手医科大学の入学式が、4月28日(木)午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程33名・修士課程6名、歯学研究科博士課程8名、医学部120名・3年次編入学6名、歯学部52名・2年次編入学11名、薬学部167名でした。

開式に先立って、3月11日(金)に発生した災害の犠牲者へ黙祷が捧げられ、一日も早い被災地の復興を祈りました。

式では、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、小川学長が入学の許可を宣言しました。続いて、医学部の森口知憲さん(左)と歯学部の柳澤基さん(中)、薬学部の齋藤大誠さん(右)が入学生を代表して宣誓を行いました。

小川学長は式辞の中で「被災された多くの方々や国民が望んでいるのは一日も早い医療人としての自

立」と激励し、高木義明文部科学大臣からは「震災直後から岩手県の地域医療を主導してきた岩手医科大学で学ぶことは非常に意義深く、誇りをもって勉学に励み、地域医療の向上を担う医療人となることを期待する」とのご祝辞を頂戴しました。

また、平成23年4月1日から新体制となった岩手医科大学医療専門学校の入学式は、歯科技工学科14名、歯科衛生学科46名の入学生を迎え、4月17日(日)午前10時から本学講堂で行われました。

開式に先立って地震の犠牲者へ黙祷が捧げられた後、式では入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、三浦校長が入学の許可を宣言し、教職員・父母・在学生が見守るなか、歯科技工学科の高橋伸明さん(右)と歯科衛生学科の高橋湖愛さん(左)が入学生宣誓を行いました。



岩手医科大学入学式



岩手医科大学医療専門学校入学式

新入職員辞令交付式が行われる

本法人の平成23年度新採用者に対する辞令交付式が4月1日(金)午前9時30分から本学講堂において行われ、採用者222名が辞令書の交付を受けました。

開式に先立って、3月11日に発生した災害の犠牲者へ黙祷が捧げられ、式典では、新入職員を代表して中8階看護師の坂田真美さんが辞令を受けました。小川学長からは「職員の自覚をもち、大学の歴史と伝統を守ってほしい」と式辞がありました。



◆新入職員内訳は次のとおりです

助教26名、ポスト・ドクター5名、専門研修医6名、臨床研修医10名、臨床研修歯科医49名、事務員10名、薬剤師2名、臨床検査技師4名、診療放射線技師3名、臨床工学技士3名、治験コーディネーター1名、栄養士3名、保健師2名、技術員1名、技術員補1名、看護師96名

医学部白衣授与式を挙行

新年度から附属病院で臨床実習が始まる医学部の新5年生を対象にした「白衣授与式」が、4月1日(金)午後4時から創立60周年記念館9階第2番講義室で行なわれました。

授与式では、学長、医学部長、病院長及び医学部クラス担任出席の下で、学生83名に白衣が授与され、学生代表として後藤志保里さんが「誠の人間たるべく努力し、臨床実習においては誠の医療を実践することを誓います」と宣誓しました。

これから臨床の場に第一歩を踏み出す学生に、大きな期待が寄せられます。



沿岸部被災地等への継続的な支援活動が行われる

3月11日に発生した災害に際し、本学職員らによる沿岸部被災地の支援活動が継続的に行われています。

また、釜石市災害ボランティアセンターでは4月7日(木)から4月10日(日)までの4日間を第一陣として、本学の学生有志約20名が物資の仕分け・搬入・配給や、家財運搬、泥すくいなど、被災地復興の大きな一助となるボランティア活動を断続的に行っていきます。



災害医療チームによる診療支援 (陸前高田市)



学生ボランティア活動 (釜石市鶴住居)

※この度の災害に際して、健康管理センターでは、職員・学生向けのメンタルヘルスケア情報を Web 上 ([岩手医大 HP](#) → [教職員専用](#) → [健康管理センター](#)) で公開していますのでご覧ください。

4月11日(月)には、被災地大学を視察中の磯田文雄文部科学省高等教育局長が来学し、本学は学生の就学支援費や施設の復旧費、被災に伴う附属病院収入の減収分について、最大限の補助金支援を要望しました。

磯田局長からは、国として補正予算の財源確保に努めることが約束され、大学を挙げて被災地の医療支援を行っている本学に対して激励の言葉をいただきました。

写真中央左：小川学長、写真中央右：磯田 高等教育局長 ▶



内丸キャンパスと矢巾キャンパスをつなぐTV会議システムが運用されています



新年度の4月から、内丸キャンパスと矢巾キャンパスでTV会議システムの運用が開始されています。同システムは、内丸キャンパスの1号館3階大会議室・記念館10階第1会議室・歯学部棟4階会議室及び矢巾キャンパスの本部棟4階大・小会議室、役員会議室の計6拠点に整備されています。

大学報においても、5月13日(金)にTV会議システムを利用して、本号の編集作業や打ち合わせを行いました。

今後、内丸キャンパスと矢巾キャンパスをつなぐ重要な通信手段として、活用されていくことになります。

理事会報告

■ 3月定例（3月28日開催）

1. 平成22年度補正予算について
2. 平成23年度事業計画について
3. 平成23年度予算について
4. 震災募金活動について
5. 理事の選任について
新任 祖父江 憲治（副学長）
（任期 平成23年4月1日から平成24年2月22日まで）
6. 理事の職務担当区分について
祖父江 憲治（人事関係担当）
7. 評議員の選任について
新任（卒業生区分） 祖父江 憲治
（任期 平成23年4月1日から平成28年3月31日まで）
8. 役職者の選任について
学生部長 赤坂 俊英（再任）
（平成23年4月1日から平成26年3月31日まで）
附属花巻温泉病院長 猪又 義男（再任）
（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）
図書館長 武田 泰典（新任）
図書館分館長 松政 正俊（新任）
（平成23年4月1日から平成26年3月31日まで）
薬学部附属薬用植物園園長 藤井 勲（再任）
薬学部附属薬用植物園副園長 林 宏明（再任）
（任期 平成23年4月1日から平成25年3月31日まで）
9. 教育職員の人事について
医学部産婦人科学講座 講座内教授 菊池 昭彦
（前 長野県立こども病院総合周産期母子医療センター産科部長兼東京大学医学部講師）
（発令年月日は割愛の状況により決定）
医学部内科学講座（呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野）
准教授 小林 仁（前講師）

- 医学部耳鼻咽喉科学講座
准教授 舘田 勝（前嘱託准教授）
医学部臨床検査医学講座
准教授 鈴木 啓二期（前講師）
（発令年月日 平成23年4月1日付）
10. 一般職員の人事について
 11. 専門学校学納金減免規程の改廃について
・ 制定規程 岩手医科大学医療専門学校学納金減免規程
（施行年月日 平成23年4月1日）
・ 廃止規程 岩手医科大学歯科技工・歯科衛生専門学校学納金減免規程
 12. 学校法人岩手医科大学組織機構図の一部改正について
平成23年4月1日付で専門学校が統合し、岩手医科大学医療専門学校に校名変更となることに伴う組織機構図の一部改正
（施行年月日 平成23年4月1日）
 13. 組織規程及び教育研究組織機構図の一部改正について
＜改正趣旨＞
副学長職の設置並びに医学部・歯学部基礎講座及び共同研究部門の矢巾キャンパス移転に伴い、本学の研究力向上のため、共同研究部門組織の見直し
＜主な改正内容＞
・ 「共同研究部門」を「医歯薬総合研究所」に名称変更
・ 研究者の所属部門と共同研究を行う場所を分け、新たな研究部門を追加
（施行年月日 平成23年4月1日）
 14. 歯学部教育職員に係る定員表の一部改正について
歯学部口腔機能保存学講座の歯内療法学分野と歯周病学分野を統合し、歯周・歯内治療学分野と改め、定員表を一部改正
（施行年月日 平成23年4月1日）

編集後記

震災から約2ヵ月半過ぎました。本学では延期になっていた入学式を終え、一時中断となっていた基礎講座の矢巾キャンパスへの引越しもほぼ完了することができ、少しずつ落ち着きを取り戻しつつあります。長い冬が過ぎ、石割桜も咲き、岩手山の頂上の雪も少なくなって来ましたが、被災地では多くの問題が山積みとなっています。岩手医科大学は現在も医療等の継続支援中ですが、個人でもできる事は協力していきたいです。（編集委員 武藤 千恵子）

岩手医科大学報 第416号

発行年月日 平成23年5月31日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線7022）

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

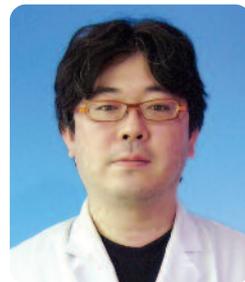
TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 26

神経精神科学講座

助教 ^{やんべ}山家 健仁



災害による心と体の変化と対処法

3月11日の震災により尊い命が失われ、また多くの人がストレスを受けています。災害のストレスには災害の体験や被害によって生じる心的な外傷（トラウマ）、日常生活の破綻や不慣れな生活などによる社会環境のストレスがあります。ストレスが続くと心と体に様々な変化が起こります。この変化は強いショックをうけた時に誰にでも起こる正常な反応で、災害後1～3週間の間に起こりやすいのですが、多くは時間がたつと自然に回復します。しかし過度のストレスが続くと心的外傷後ストレス障害（PTSD）やうつ病などの病気がおこることがあります。ストレスをなくすことは難しいのですが、ストレスをためないように和らげる方法を知っておくことは大切です。ここではその対処法について紹介します。

(1) サインをみのがさない

イライラや不機嫌、気分のおちこみ、やる気がでない、考えがまとまらない、体のだるさ、不眠、頭痛、動悸、めまい、胸痛、肩こり、食欲不振、胸やけ、吐き気、便秘、下痢などの胃腸症状などは心が発するサインです。心や体の不調が続くときは抱えこまず、早めに専門医に相談しましょう。

(2) 生活リズムを大切に

食事や十分な睡眠、入浴など生活のリズムをなるべく崩さないようにしましょう。適度のアルコールはストレスの軽減になりますが、常用は逆効果です。

(3) リラックス法

自分にあったリラックスを出来る時間と方法を持ちましょう。また緊張が強いときは、ゆっくりと腹式呼吸をくりかえしてみましょう。

(4) ストレスを減らす工夫

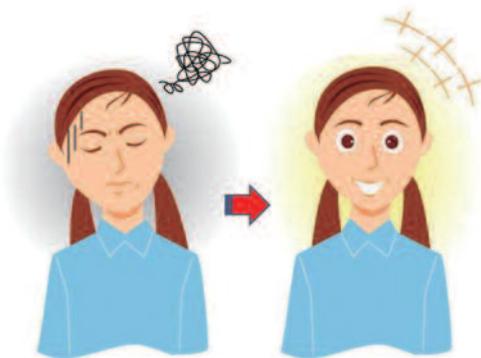
避けられるストレスは避けましょう。引き受けすぎ、抱え込みすぎは止めましょう。

(5) やわらか思考

ストレスがあっても、その人の受け取り方によって重みは違ってきます。マイナス思考が強いときは、「他の考え方は出来ないか」と柔軟に考えてみましょう。

(6) つらい気持ちを相談する

ストレスが強いときは孤独感を感じがちです。身近な人同士声を掛け合いましょう。また1人で抱え込まずに信頼できる人に相談することは、不安や緊張を和らげてくれるだけでなく、考えを整理し解決法を見つける手助けになります。



第85回大学報編集委員会

日 時：平成23年5月19日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：影山 雄太、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、佐々木 志津子、佐々木 光政、赤松 順子、佐々木 忠司、中島 久雄、岩動 美奈子、武藤 千恵子、野里 三津子